一宮市国際交流協会ニュース第65号　2013.11　　ホームステイ特集号

かけはし

iia
ichinomiya
international
association

もしもの災害に備えて

一宮に住む外国人の方々が、万一の災害に遭遇しても行動できるように「外国人防災教室」が開催されました。火災発生を想定した119番電話通報、立ち込める煙を通り抜けて脱出避難、消火器を使った初期消火、高所から避難袋を滑り降りる脱出訓練、AEDを使った救命訓練等、実際に役立つ体験学習を熱心に受けました。（ドリアン）

→関連記事……「楽しく体験しました『外国人防災教室』」４Ｐ

特集 ホームステイのすすめ〈受け入れ編〉

おとなりの家に外国の人が遊びに来ているみたい…そんな風景を見たことがありませんか？
さまざまな国の方が、日本のお宅にホームステイをして日本や一宮のことを学んだり、ホスト家族との交流を楽しんだりしています。“楽しそう…やってみたいけど少し不安…”そう感じている方に、思い切って体験していただくための「ホームステイのいろは」を体験談を通じてお伝えします。
来年の「かけはし」紙面に、あなたの家族の笑顔写真が載っているかも…

きっかけはいろいろ

「留学したい！」という高校生の娘。心配する私に「じゃあホームステイで来てもらうのはいい？」広い世界に興味を持つ彼女に触発され、初めてのホームステイを体験しました。１日目はすごく張り切ったけど、２日目からはもう余分な力も抜け、自然体で楽しめたことにびっくりしました。
「みなさんもどうぞ。安心して！誰でもできますよ。」（中国の包さんを初めて受け入れした杉山さん）

いろんな国に友だちができたら…

文化の違い

インドネシアの人の話す英語にビックリ！英語も話す人の数だけあるようです。
ちょうどムスリムのラマダン（宗教上、陽がある時間は何も食べない）の時期、夫婦でつきあいました。寄り添うことしかできないですから。
子どもが多感な時期に「違い」も「同じ」もたくさん体験させたいです。（重松さん）

家族のOKがないと…

子どもとは盛り上がったものの、夫が…。２日目まではヒヤヒヤでした。でも３日目には、「助手席に乗って」と声をかけたり「温泉に行きたい」というリクエストにも答えたり。
「また来てね！」子どもの心になにか温かいものが残ったようです。（ウズベキスタンのOtabekさんを初めて受け入れした菱川さん）

どんな人なのか不安が・・

すごくわがままな人もいますよ。初めはビックリしたけど、ダメなものはダメとはっきり言える自分に変わっていきました。
国籍や性別、年齢は関係ないです。素敵な人とはずっとつながっていけます。お正月に実家のように帰ってくるかわいい子もいますよ。（受け入れ歴24年の肥田さん）

ことばは大丈夫？
ホームステイを経験したみなさんの話に「ことばが通じなくて困った…」という話が出てこないので、そのあたりも聞いてみました。実は、お風呂の使い方がうまく伝えられなかったり、ちぐはぐな会話がいっぱいあったりと困ったこともいろいろあったようです。でも、振り返ればそれも楽しい思い出に変わっていくようです。同じ人間だからなんとか伝わると信じてくださいね。

なぜホームステイ？

リビングから広がる世界♪

時々ゲストが来てくれることで、子どもたちの成長が感じられます。「一緒に遊ぼ！」と自分から声をかける姿も嬉しいです。いつもは叱ってばかりの息子から教わることもたくさんあって、ホームステイは家族も仲良くなれますね。（祖父江さん）

やってみて良かったことは何ですか？
家族のいつもと違う部分が見えます。ゲストをお客さまとしてもてなす母、家族としてふるまう父。どちらも歓迎の気持ちだと思いました。でも私なら家族として受け入れてもらったほうが嬉しいかな…（3世帯で受け入れた藤田さん）

中国の方を受け入れしたことで、中国という国のイメージが変わったことが良かったです。マスコミの情報が全てではないことがわかりました。（杉山さん）

人に会うことで、生の世界を知ることができます。海外の学生の英語でのコミュニケーション力にもびっくりします。（佐野さん）

受け入れを何度もされている方の話を聞いているうちに、勉強では得られない「生きる力」のようなものが身につくと感じました。（菱川さん）

対面式で出会う時はドキドキ。一緒に食べて、話すうちに、別れるのが寂しいくらい仲良くなる。そんな出会いを切り取った交流写真（中国・マレーシア・ウズベキスタン・カンボジア・ドイツの方と）を紹介しています。取材にご協力して頂いたのは、国際交流協会受け入れボランティアとヒッポファミリークラブで交流を楽しむ9名の方々です。お互いの体験を話し、聞くことで、ホームステイの意味も深まっていったようです。
我が家の最近のゲストはマレーシアの高校生。2日目の晩、「家族が恋しい‥」とホームシックになりびっくり。マレーシアで大勢の家族と過ごす彼女には、夫とふたり暮らしの我が家は寂しかったようです。帰国後、何度もメールをくれます。もう一度会いたいと思う人がまた一人増えました。ぜひみなさんも一度体験してみてください。一宮市国際交流協会では受け入れボランティアを随時募集しています。（森）

楽しく体験しました『外国人防災教室』

青年の家　8.4

「もしも、今災害がおきたら…？」というテーマで、一宮消防署の協力を得て『外国人防災教室』が開かれました。当日の参加者は中国、フィリピン、ベトナムなどの出身者19名で、ボランティアは30名でした。

まず館内放送で「地震発生！」のアナウンスがあり、みんなで机の下に隠れました。

次に庭に出てテント（スモークハウス）の中を通り抜ける体験をしました。テントの中は白い煙ばかりで右も左も見えません。ひたすら前へ進み出口が見えた時はほっとしました。実際に火災が起こった時どうすればいいのか消防署員に聞くと「怖いのは煙です。煙を吸い込むと呼吸ができなくなります。口にタオルを当てて、ひたすら出口を探してください」とのことでした。

そのあとボランティアの人たちによる保存食を活用した料理や、炊き出しをイメージした食事などを昼食にいただきました。サバ缶カレーやけんちん汁、ミニピザなど７種類も用意されており、これがまた格別おいしかったです。

その後、消火器を使った消火訓練の体験、避難袋を使った避難体験をしました。避難袋は４階から滑り降りるものですが、内側がらせん状になっており、ゆっくり降りてきます。体験者に聞くと「怖くなかった。」「面白かった。」と異口同音に答えてくれました。

さらに心肺停止の応急処置の講習があり、これも参加者全員で心臓マッサージの仕方やAEDの使い方を教わりました。

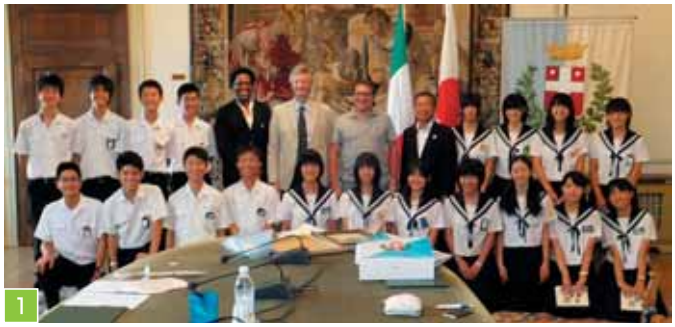
最後に市の危機管理室からDVD等による防災・減災についての啓発講義がありました。ここでは一宮市民として災害にどう対処したらよいか、具体的な話が聞けました。

今回は外国人参加者の大半が20代ということもあり、物怖じせず、楽しんで参加しているようでした。ボランティアの人たちも一緒になって楽しんでいる様子でした。本当はこういう体験をすべての外国から来た人たちにさせてあげたいなと思いました。交流を通じて地域の人との信頼関係が深まっていくといいですね。

（文／橋本、写真／ドリアン）

中学生38の目で見た、感動の歴史と、文化、そして人の温かさ!!

一宮市中学校海外派遣 in イタリア　8.4～8.10


1

今年１月に一宮市が、イタリアのトレビーゾ市と友好都市提携を結びました。そこで、昨年まで続いていた中学校の海外派遣が、中国からイタリアへ変更になりました。

各学校の生徒代表19人、引率５人、添乗員１人の25人での出発でした。全行程７日間で、トレビーゾ、ヴェネチア、ローマの３地域を訪問した素敵な出会いと体験を写真で紹介します。（藤井）

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

■No. 1　トレビーゾ市市長表敬訪問
マニルド市長を訪問し、一宮市を英語で紹介したり、「ふるさと」や「赤とんぼ」など日本の歌を披露。

■No. 2　トレビーゾの水路と住宅
水面と住宅の基礎がほぼ同じ高さで、雨が降るとすぐ浸水しそう。また、建物の色が決められていて、統一感があり、どの景色も絵になります。

■No. 3　オープンテラスでランチ
パスタやピザは、その土地ごとで味が違い、この日のメニューは、アンチョビーのパスタです。

■No. 4　ヴィラ・サンディのワインセラー見学
「ヴィラ」は別荘のこと。その地下倉庫には、200万本以上のワインがあり、醸成されるのに適温である14℃で保管されています。

■No. 5　トレビーゾの同年代のこどもたちと交流
「ドラえもんの福笑い」や「はじめの一歩」などで一緒に遊び、言葉のかべも乗り越えて楽しみました。

■No. 6　市場を見学
生活感あふれ、市場はどの果物もカラフルで、見ているだけで楽しい。

■No. 7　サンマルコ広場の大聖堂前で
有名な『ため息の橋』やベネチアングラス工房なども見学。

■No. 8　感動の「水の都ヴェネチア」
水上タクシーから見た、ヴェネチアの町。縦横無尽に水路が走り、交通手段は舟。

■No. 9　「世界一おしゃれな列車」ユーロスター
この列車に乗ってローマへ移動。

■No.10　「ローマの休日」で有名なスペイン広場
『トレビの泉』、『スペイン広場』にも行き、ジェラートを食べ、満喫。ここでは、40℃近い日差しの中、生徒たちはじゃんけんをして、階段登りを楽しんだ。

■No.11・12　バチカン市国の「サンピエトロ大聖堂」
この大聖堂は1626年に完成。総面積22,000平方メートルで、とにかくすばらしい。ブラボー！

■No.13・14　イタリア派遣の目的のひとつ「ローマで活躍する日本人」近藤朋子トゥッディーニさんに会う
35年前、日本から一人ローマに来て、イタリア料理店を経営。今回４人の代表生徒が、ピザを作る体験の場を頂きました。仲間が作ったピザと夕食を食べた後、朋子さんから『イタリアを見て、日本の中学生に期待すること』というテーマで話を聞きました。その中で、「日本人は、もっと自分の意志を伝えよ」と激励をされました。

目からウロコ！外国人のための高校進学セミナー

青年の家　7.6

参加者は、５家族、総勢17人。中国、フィリピン、南米の各国の中学生と彼らの先輩にあたる高校生や彼らの親の一部が参加しての開催でした。

セミナーは、まず日本の教育制度入門から始まりました。参加者には、日本の義務教育とか進学に関する制度がどうなっているのか充分な知識がなく、セミナーはその入口の部分を丁寧に解説することから始まりました。

教育制度に続き、話題は通知表や入試制度、高校や大学の種類、学歴がもたらす社会的効果など現実的なテーマにひろがります。

日本人の私などが当然のように通過してきた「受験」と向き合う前に、もっと手前の段階の知識習得が必要になるということを今さらながら気づかされました。

セミナーは高校進学において私立、公立の別、全日制、定時制、普通科、専門学科の違いも知る必要があるのでその説明へと続きます。さらに高校を卒業した後、目指す進路や希望により、大学進学を見据えての進路選択など、考えることは沢山あることも教わります。

さらに重要なこととして義務教育の先へ進むためには費用が必要です。この点についても奨学金制度について詳しく解説がされました。

今回の参加者が高校進学に対し目からウロコが落ちて、不安な気持ちから少しでも解放される足掛かりとなるセミナーになればと思いました。外国人が高校進学するためには、想像以上に高いハードルがあることをあらためて思い知らされました。（You都市）

夏休み！オープンキャンパスと産業技術記念館へ行ってきましたぁ

同朋大学　8.4

暑いけど楽しい夏休み！日本語ひろばジュニアの子どもたちが名古屋にある同朋大学のオープンキャンパスに参加してきました。

そこでは大学構内を開放し進学相談や大学の紹介に加え、外国人の子どもたちに対する教育事業体制を整備する主旨で現役大学生による「世界の子どもフォーラム」という催しものが開催されていました。

この催しを企画した大学生が楽しいトークをまじえ、みんなが参加できるゲームや、ゲストへの質問など、司会進行をしてくれます。

名古屋市に住む外国籍を持つ子どもたちをゲストに迎え、彼らの紹介とともに彼らの得意な歌や踊りを披露するコーナーもあり、会場は大きな拍手と歓声で盛り上がっていました。

ブラジルの子どもたちはギターとピアニカによる歌と演奏、朝鮮の子どもたちは母国の伝統的な踊り、フィリピンの子どもたちは今一番好きというダンスを踊ってくれました。

国際クイズのコーナーでは、ゲストの母国や日本をテーマにした出題があり、初めて知る各国の情報に驚きの声が上がっていました。

「Believe」という日本の歌を全員で合唱した後、大学の学生食堂で各々が好きなメニューを選んでランチ、みんなの顔に笑顔がこぼれます。

同朋大学をあとに、次は「トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館」の見学に向かいます。豊田佐吉翁が世界に先駆けて発明した自動織機をはじめとして、現代の自動車に至るまで詳しく展示されており、子どもだけでなく大人も十分楽しめる記念館でした。

子どもたちに夏休みの楽しい思い出がさらにもうひとつ増えたようですね。（You 都市）

長男龍龍（ロンロン）と旅した黒龍江省

尾西第三中学校教諭　加藤豊裕

加藤豊裕さんは、６年前に中国人の奥様と結婚し、一宮市で生活されています。今回、奥様の実家がある黒龍江省に里帰りした時の様子を寄稿していただきました。（日野）

長男龍龍１歳の誕生日を妻の実家で迎えるため、今年の夏、中国黒龍江省に約１か月間滞在しました。黒龍江省は中国の中で最も北に位置しており、朝晩は長袖が丁度いいほどの気温で、昼間でも風が吹くと寒さを感じるほどでした。

中国の誕生ケーキは、一般に日本よりも派手なものが多いように思います。我が家では、息子の名前「龍龍」にちなんで、龍が舞うデザインのものをオーダーメイドで作ってもらいました。また、私たちの滞在中に義父も還暦を迎えたのですが、日本なら結婚式で出てくるような６段重ねのケーキが堂々とテーブルに鎮座していました。

中国の人たちは親類で集まるのをとても好みます。義父の還暦祝いは、レストランを貸し切り、親類数十人が集まって盛大に行われました。また、そういう特別な機会に加え、普段から一緒に食事に行ったり、互いの家を訪問したりします。私たちの滞在中にも、気付くと親類の誰かが家にいたり、外で一緒に食事をしていたりして、親類同士のつながりがたいへん深いと感じました。

中国の街には、大都市でも地方都市でも、大きな広場があります。そこには老若男女が毎日のように集い、凧あげをしたり、羽蹴りをしたり、水をつけた筆で地面に字を書いたりと、それぞれが思い思いに楽しんでいます。

今回の滞在中、おそろいの服装で踊る人たちを省内のいくつかの街で見かけました。40代から50代以上の方が多い様子で、男女ともに参加しています。

白いズボンに、水色やピンクなどのＴシャツといった出で立ちで、朝の４時くらいから練習に出かけていくのを見かけました。夕方になると、数十人から数百人で構成されるそうしたグループがいくつも集まり、飛び入り参加の人も加わって、広場は熱気に包まれます。私が滞在した街では、これが夏の間中、毎日行われるそうです。

一口に中国人と言っても、地方ごとにずいぶん気質が異なると言われます。では黒龍江省の人たちはというと、純朴でおおらかというのが私の印象です。私が日本から来たと話すと、日本のタレントや、地理や、食べ物のことなど、好奇心をはっきりと示しながら次々と質問をしてくる人が多かったです。

日本よりも広い面積を持つ黒龍江省。その魅力を限られた紙面で紹介することはとてもできません。もし中国を旅行する機会がありましたら、ぜひ北方に足を伸ばしてみてください。夏に行くと、高原のような涼しさを味わうことができます。冬の寒さはたいへん厳しいですが、ハルビンの氷祭りなど、冬ならではの風情もまた旅の魅力と言えるでしょう。

遊歩道で見つけた中国将棋の彫像
幼い子供が老人を負かしている様子がほほえましい。

おとなりさん

豪華客船タイタニック号が出港したイギリス南部の港町出身のスティーブン・ティザードさんは、地元サッカークラブチーム「サウサンプトンFC」の熱烈なファンです。お会いしたときもユニフォーム姿でした。

一宮市にやってきたのは一年前。名古屋大学や近隣の会社で、英語を使ってビジネス交渉をうまく進める方法や、外国人が参加する会議でのマナーなどを教えています。大学生の頃からバックパッカーとして世界各地を歩きまわり、今までに訪れた国は42カ国にのぼるそうです。それぞれの国の文化の違いを肌で感じてきたことが今の仕事に生かされているようです。

「本を読むより経験した方が吸収できる」をモットーに、実際にいろんな国へ行くと、自国のニュースからうけるイメージとは、全く違った一面を発見できると言われます。初めての国で不安に感じることはないかと質問すると、言葉の通じない慣れない文化に触れることによって自分が成長するのを実感できるので、冒険して困ることさえ楽しくワクワクすると答えてくれました。

一宮は、どこにいても声をかけてくれる人がいる親しみやすい街、このコミュニティーの一員になれた気がして自分のふるさとのように感じるとまで語ってくれたスティーブさん。いつか今まで書きためた日記をもとに小説を書きたいそうなので、将来一宮市もその小説の舞台になったらいいですね。（伏原）

iiaイベントinformation

お問い合わせ・お申し込みは
一宮市国際交流協会（iia）まで
ＴＥＬ：0586-84-0014
ＦＡＸ：0586-86-1809
メール：iia-138@iia-138.jp

国際スポーツ交流会

地域在住外国人と一緒に、ソフトバレーを通じて国際交流しましょう！
日時：１月26日（日）午後１時半～午後４時
会場：一宮市総合体育館
対象：市内在住・在勤・在学の小学生以上の市民、地域在住外国人80名（抽選）
料金：無料

親子国際理解セミナー

ＪＩＣＡ中部なごや地球ひろばを訪問して、親子で開発途上国の話を聞いたり食事を体験することにより、国際理解を深めます。
日時：１月19日（日）午前９時～午後４時半
会場：JICA中部なごや地球ひろば ほか
対象：市内在住・在学の小学生～中学２年生とその家族35名（抽選）
料金：500円（昼食代を含む）

「やさしい日本語」講座

日本語があまり上手でない外国人にも伝わる「やさしい日本語」を、グループワークを通じて学びます。
日時：２月15日（土）午前10時～午後３時
会場：尾西生涯学習センター
対象：市内在住・在勤・在学の方25名（抽選）
料金：無料

編集後記

九月初旬、東京にいる中国人の友から、「月餅」が届いた。さっそく薄く切って口に入れたらとても甘い。何日かして空き箱をかたづけようとした時封書に気がついた。手紙と写真が同封されていた。手紙には、ー中略ー　中国に行ってきたおみやげです。中国では、中秋の名月には月を見ながら月餅を食べるならわしがあります云々ーあっ、今夜が中秋の名月！私は慌ててキッチンに走り込み、冷凍庫のカチカチの月餅を取り出した。（カモミール）

発行　2013年11月　編集　一宮市国際交流協会　〒493-8511　一宮市木曽川町内割田一の通り27番地　TEL0586-84-0014

この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材、編集されています。
協会に関する情報は、ホームページをご覧ください。【HPアドレス　http://www.iia-138.jp/】
ご意見・ご感想などお待ちしております。【メール　iia-138@iia-138.jp】
Facebookページもご覧ください。【Fb　https://www.facebook.com/iia138】